

健康局

Health Service Bureau

日本が健康先進国であり続けるために

Our Mission

日本が経済先進国になることができたのは、国民に健康格差が少なく、世界有数の健康先進国であるからです。全ての国民が健康で自分らしい生活を実現するために、感染症の危機を防ぎ、国民の健康づくりを支援し、がんや難病等の疾病、臓器移植に対する取組みを進めていきます。

部局の所掌分野

感染症対策

検疫体制の強化や予防接種の徹底、抗菌薬の適正使用を進め、ジカウイルス感染症やエボラ出血熱等、国境に関係なく人類を脅かす感染症の危機や麻疹、インフルエンザといった感染症のまん延を防いでいます。



がん対策

がんになっても安心して暮らせるよう、がんを早期発見できて個々人に合った最先端のがん治療を受けられる体制を整備し、また、がん治療と仕事が両立可能な取組を進めています。

難病対策

難病を患っていても不安無く暮らすことを可能とするため、早期診断と適切な治療を可能とする医療環境の整備と、難病の完治に向けた医薬品の開発支援等に取り組んでいます。

臓器移植の適正な実施

重い病気等により臓器移植が必要となった人が、少しでも多く適切な移植医療を受けることができるよう、医療機関の環境整備等に取り組んでいます。

【教育用啓発パンフレット】



健康づくり

健康格差を小さくし、自分らしい生活を可能とするため、健康リスクが明らかな受動喫煙や生活習慣病への対策、そして、自治体による健康になる街づくり等の取組を支援しています。

【健康増進普及月間ポスター】



政策紹介 1

がんになっても安心して暮らせる社会の実現のために

がんは、1981年以降、我が国における死因の第1位であり、生涯のうち2人に1人ががんになるとされています。がんは依然として国民の生命と健康にとって重大な問題であり、厚生労働省では、がん対策を総合的に推進しています。まず、がん検診の受診率向上を中心とした、がん予防の取組を進めています。また、がん治療・研究を促進する観点から、がんゲノム医療の推進や難治性がん、小児がん、希少がんの研究促進等に取り組んでいます。そして、がんになった場合も社会生活を継続できるよう、がん患者の就労支援等に取り組んでいます。

がんになっても安心して暮らせる社会の実現に向け今後もがん対策に全力で取り組んでいきます。



政策紹介 2

感染症の発生・まん延を予防し、国民の安心・安全を支える

平成28年は、中南米を中心にジカウイルス感染症が流行し、また国内では麻疹の集団発生がありました。人・モノの国際的な移動が活発化した今日では、国内だけでなく、国境を越えて徹底した感染症対策が必要になっています。

厚生労働省では、平時から感染症に対する正しい知識と予防接種等の予防策を国民に対し普及啓発するほか、検疫所の機能強化による感染症の流入防止、国内

発生時の行政や医療機関の対応力強化等に取り組んでいます。また、最近では、抗生物質の効かない薬剤耐性菌が世界的に発生しており、我が国でも薬剤耐性(AMR)対策抗菌剤の適正使用のため、抗微生物薬の適正使用に向けた取組等を進めています。

海外での感染症の発生状況にも目を配りつつ、国内体制強化や予防接種の推進等の感染症対策に取り組んでいきます。



KEY WORD

性感染症対策

性感染症は性行為を通じて誰もが感染する可能性があり、感染すると不妊等の後遺障害や生殖器がんを引き起こす原因となります。しかし、感染しても無症状であるか症状が軽いこともあるため、感染したことに気付かず、本人に自覚のないまま感染が拡大してしまう可能性があります。

性感染症のまん延を防止するために、保健所等での性感染症検査や性感染症に関する相談・普及啓発事業を推進するなど、今後も性感染症対策に取り組んでいきます。

【キャラクターを起用した啓発ポスター(H28.11~)】

©Naoko Takeuchi



KEY WORD

受動喫煙防止対策

受動喫煙の健康影響は科学的に明らかで、年間1万5千人を超える方が亡くなっていますが、日本では、受動喫煙防止は努力義務にとどまっています。

また、近年のオリンピック・パラリンピック開催地はすべて法的規制による受動喫煙防止対策を講じています。

我が国においても国民の健康増進を図るという観点から、2020年の東京オリンピック・パラリンピック等の開催を契機に、より一層受動喫煙防止対策に取り組んでいきます。



【「受動喫煙のない社会を目指して」ロゴマーク】

政策紹介 3

予防接種

我が国では、昭和23年に予防接種制度を確立し、予防接種は、人類の脅威であった天然痘やポリオの根絶等、人類に多大な貢献をしてきました。

現在でも、子どもたちやお年寄りに対して必要な予防接種を受ける機会を提供することで、感染症の流行を抑制しており、予防接種は国民の命や健康を守る重要な役割を担っています。

その一方で、予防接種には極めて稀ですが副反応により健康被害が生じる場合があるため、迅速な救済や医療、生活面での支援を充実させるとともに、最新の科学的知見に基づく検討を進める等、安全な予防接種体制の整備に努めています。

さらには、国内外の感染症対策に必要なワクチンを世界に先駆けて開発するため、研究への支援を行っています。